# 響く 復興の歌
# 待ちに 待った ヴィーブル再開

①～②コーラス隊が元気よく大合唱　③～⑤出演者、観客一緒に楽しみました　⑥玄関でヴィーブルくんがお出迎え　⑦名物赤星誠司先生による会場全体を巻き込んだ指揮　⑧～⑨式典を飾った合志中学校吹奏楽部　⑩チケットは実行委員会お手製　⑪出演者のお昼ご飯の用意に慌ただしいボランティアの皆さん　⑫図書館で熊本大学のOBやOGによるマンドリンコンサート　⑬愛らしい手作りのヴィーブルくん　⑭図書館が開館　⑮ヴィーブルちゃん饅頭の具はあんで包んだサツマイモ　⑯饅頭に焼き印をうちます　⑰ヴィーブルちゃん饅頭を作った実行委員

4月8日、熊本地震により被害を受けていた合志市総合センターヴィーブルの改修工事が完了し、オープニングセレモニーを開催しました。

オープニングの式典で合志中学校吹奏楽部の皆さんが演奏を披露。図書館では熊本大学のOBやOGによるマンドリンコンサートが開催されました。午後は文化会館で3年ぶりにドレミの広場が開かれ、震災後、待ちわびていた観客とスタッフが歌で再開を祝いました。

オープニングをドレミの歌で華々しく飾ると、観客も一体となり、会場中に響き渡る大合唱。同イベントで名物となっている大津中学校の赤星誠司先生による音楽の授業では、時折笑いを交えながら楽しく復興ソングを練習しました。また、熊本県警察音楽隊による迫力のある演奏もあり、ヴィーブルの復活を印象付ける一日となりました。

ドレミの広場を開催するに当たっては、ドレミの広場実行委員会が中心となって、運営を進めました。

実行委員長の渡邉千恵子さん（御領）は「ヴィーブルの再開をずっと願っていました。ドレミの広場だけでなく、スポーツ大会や成人式、話し合い、たくさんの思いをここでみんなと分かち合いました。文化、芸術、スポーツの拠点、そしてみんなが集う場所。今まで以上に張り切って準備しました」と目を潤ませながら熱い思いを語りました。

ヴィーブルちゃん饅頭やチケット、出演者のお昼ご飯、飾りつけなど全て手作り。おもてなしの心を尽くしました。当日披露した歌「ヴィーブルで会いましょう」は実行委員などがヴィーブルでの思い出を歌詞に表現し、市職員が作曲したものです。

みんなが心から待ちわびた再開、市民の皆さんが生き生きと活躍する場所として、ヴィーブルは、また今を生きていきます。（※フランス語でヴィーブルは生きるという意味）

**ヴィーブルちゃん饅頭**

一つ一つ丁寧に作ったヴィーブルちゃん饅頭は抽選で参加者に配られました